

2021年度入試の問題分析

① 出題傾向 一限られた時間内で二つの長文の読解が求められる—

公募制推薦入試、一般選抜ともに、二つの長文(4,000~8,000字程度)の正確な読解と、それに関する設問の適切な解答を求めている。限られた時間内でこれらを完璧にこなすためには、継続的な学習によって、読解力を養成するとともに、漢字や慣用表現などの言葉の知識を習得しておくことが不可欠となる。

② 出題内容 一評論文の読解を問うオーソドックスな設問—

公募制推薦入試、一般選抜ともに、評論文から大問2題が出題された。一般選抜の一部では、この構成に漢字問題のみの大問1題が加わるものもあった。社会科学・人文科学を中心に、生物学、建築、農業などについての文章もあり、多様な分野の評論文が選ばれている。新型コロナウイルスの感染拡大という時事に関連して、疫病についての文章も出された。歴史的事例を挙げて書かれている文章などが多く、具体例を用いて何を説明しようとしているのか、論旨の展開を追う力が求められる。読解問題の大問ごとの設問数は、公募制推薦入試、一般選抜ともに6~8問程度だった。一般選抜の漢字問題のみの大問では5問出題された。

設問内容は漢字の書き取り、語意、語句・接続語の空欄補充、傍線部の内容説明や理由説明、本文の内容合致判定など、オーソドックスな設問で構成されている。難問・奇問はないが、判断の難しい選択肢が含まれている問題もあり、丁寧にその適否を吟味する必要がある。特に、各選択肢が本文の内容に合致するか否かを判定させる形式は、より厳密な判定力が求められる。

一般選抜のほとんどでは、記述問題として書き取りや抜き出し以外に、30~80字程度で内容を説明させる設問が1問出題される。

③ 難易度 一標準的な難易度だが時間配分に注意—

公募制推薦入試、一般選抜ともに私立大学の入試問題として標準レベルであり、入試問題を解き慣れている人にとっては特に難解ではない。ただし、試験時間の配分には注意すべきである。公募制推薦入試60分、一般選抜70分という試験時間内で長文を読解する必要があるため余裕はない。本文を二度読みする時間の確保は難しいので、落ち着いて本文を読み進め、内容的に切れるところでその都度設問を解く、ということを繰り返すのがよいだろう。選択肢の判別に迷った箇所や記述の表現を吟味したい箇所のみ、後で戻って見直すようにすると、時間切れになるリスクを減らすことができる。

学習アドバイス

① 公募制推薦入試は、読解力の養成と国語の知識の獲得を中心に

教科書、新聞・雑誌、文庫、新書などのメディアに日常的に触れ、活字を読むことで、読解力を高めよう。その際、意味のわからない語句は面倒がらずに辞書で確認するようにすると、語彙力を着実にUPできる。加えて、慣用句、四字熟語、外来語、評論キーワードを効率的に覚えるために、受験に頻出の語句をリスト化している市販の単語帳やWebサイトなどを活用するとよいだろう。また、出題の傾向や特徴を体感するために、まず過去問をできるだけ数多く解こう。過去問を難しく感じる場合は、自分のレベルにあった市販の問題集で、過去問に類似した文章テーマ・設問形式の問題を解くことから始めるとよい。

本文を読むときは、文脈(語句と語句、文と文、段落と段落の関係)を正しく把握するために、注目すべきポイントをおさえよう。まず、「指示語が指している箇所」「語句を言い換えた箇所」「具体的に説明している箇所」「端的に短い語句で表現している箇所」に着目して読むと、語句や文の意味を正確に理解できる。次に、「段落と段落がどのような関係にあるのか」「ひとまとまりの内容がどの段落で終わるのか」「どの段落から新たな内容が始まるのか」「筆者の主張はどこで述べられているのか」という点を考えながら読んで、本文の全体像を頭の中に描いていこう。

選択肢を吟味するときは、本文と一語一句照らし合わせて、その適否を調べるとよい。間違いの箇所には傍線を引くなど、目印をつけていくと分かりやすい。問題を解いて自己採点するだけでなく、読み方や解き方を常に工夫していくことで、得点力がUPする。

なお、市販の問題集選びに迷ったときは、大学入学共通テストやセンター試験の過去問集をすすめたい。その理由は三つある。一つ目は文章のレベルが同程度であること。二つ目は選択肢の完成度が高いこと。三つ目は選択肢が長い場合、多少長い選択肢が出てきても難しく感じたりせず、冷静に選択肢が吟味できることである。受験校で古文や漢文の出題がない場合は、評論文の問題を解くだけでも、質の高い学習ができる。

② 一般選抜には、読解力の養成と国語の知識の獲得にプラスして、記述力の養成が必要

読解力の養成と国語の知識の獲得に関しては上述の公募制推薦入試と同様である。一般選抜ではさらに記述力の養成が必要となる。一般選抜では、傍線部分の内容や理由を説明させる記述問題が出題される。このような問題を解くには、傍線部分に関連する箇所を見つけるだけでは不十分である。引用する箇所を吟味し、正しい日本語で指定文字数に収まるように表現を工夫する必要がある。

こうした記述力を養成するために、過去問や問題集の記述問題に取り組む際に、模範解答が本文のどの部分に着目し、本文の表現をどのように言い換えているのかきちんと理解しておこう。

また、記述式問題で漢字を書くときは、楷書で正確に書こう。例えば、「進」のしんにゅう(しんにょう)は三画なので二画目と三画目を続けて書かないようにする、「解」の最後は「午」ではなく「牛」と書く、という風に気をつけて書く練習を積むと、誤字をなくすることができる。なお、今年的一般選抜では、漢字問題で正しい漢字を書かせる問題が出ており、漢字の正確な知識はより重要になっている。